

なるほど納得！  
知って得する！  
**知っ得！コーナー**

☆「高知市まちづくりファンド」に「まちづくりたまごコース」ができました！

高知市を住みよいまち、豊かな地域社会にするために行う市民の自主的な「まちづくり」活動を応援する制度、「高知市まちづくりファンド」に、このたび新しく「まちづくりたまごコース」が新設されました！

- 助成の対象●  
身近なまちづくり活動に取り組むにあたって、事前学習会、企画の準備・計画などに対し助成。
  - 応募資格●  
高知市内に活動拠点があり、3名以上のグループであること。そのうち1/3以上が市内在住、または、在勤、在学であること。
  - 募集期間●  
平成29年8月1日（火）～平成29年12月25日（月）
  - 助成額●  
1事業あたり、上限3万円
- 詳細については、高知市市民活動サポートセンター（月～金…10：00～21：00、土…10：00～18：00 電話 820-1540）まで。



**市民憲章よさこい踊り子隊の夏！**

第64回目となる今年のよさこい祭りに、連続43回目の出場となる「市民憲章よさこい踊り子隊」を編成しました。当日飛び入り参加できるチームとして、毎年多くの市民や観光客の方々によさこい祭りを楽しんでいただいております。今年は8月10日、11日の2日間で延べ1,000名近くの方々にご参加いただきました。

参加者は、赤ちゃんから80代の方まで、また高知県外や海外からの観光客も！帯屋町演舞場や中央公園競演場では、観客の皆様も次々と飛び入りで踊っていただき、たくさんの笑顔で溢れていました！ご参加いただきました皆様、ありがとうございました。

老若男女、国籍を問わず、誰もが楽しく踊れる振り付けと、迫力ある生バンドの演奏を楽しんでいただきたく、来年も「市民憲章よさこい踊り子隊」へのご参加をお待ちしております。



**地域リーダー養成講座をリニューアル  
2年間の「地域活動実践ゼミナール」開講**

8月19日（土）に、第1回目の地域活動実践ゼミナール（ちーかつ）が開催され、2年間にわたる講座がスタートしました。

第1回目の講座では、講座のねらいや進め方、ルールなどを受講生の中で共有したうえで、5つのグループに分かれ、グループ内で「場作り役・記録役・旅人役」の役割に分かれ、自己紹介・自分がやってきた活動の紹介・これからやりたい活動の紹介・地域の紹介を3回行いました。（場創り役は進行、記録役は模造紙に記入、旅人役は1回ごとにグループを移動しました。）

第2回目はフィールドワークとし、8月末～9月末の間に各地域で行われている会議に参加し、話し合いや会議の場の作られ方を見学しました。

9月30日（土）に実施した第3回目では、見学してきた会議を共有し、良い会議の運営の仕方などを学びました。



**地コミくん・  
地コミちゃん**

周りの方に迷惑を  
かけないように  
頑張ります！！



このコーナーでは地域コミュニティ推進課で働く仲間や仕事の内容を皆さんにもっと知ってもらうため、職員（地コミくん or 地コミちゃん）を紹介していきます。

第4回の地コミちゃんは、今年4月、新規採用職員として地域コミュニティ推進課に配属された『濱田 奈穂（はまだ なほ）さん【以下、奈穂さん】』です。

学生時代は女子サッカー部に所属し、サッカー漬の毎日を送っていたとのこと。普段のおっとりした優しい感じからは、想像が付きませんが・・・

課全体の庶務や町内会への発送業務等を担当している奈穂さん。日々分からないことにとまどいながらも、優しい先輩や上司たちに教わりながら、一生懸命に仕事に取り組んでいます。

目標とする「市民の方からも職員からも親しみやすく信頼される職員」になるため、日々奮闘する奈穂さんの成長が楽しみです。  
（先輩職員 M.T筆）

**まちづくり“一緒にやろうや！”通信**

発行 平成29年10月発行

高知市市民協働部  
地域コミュニティ推進課

高知市鷹匠町2丁目1-43  
たかじょう庁舎2階

Tel : 088-823-9080

Fax : 088-824-9794

Mail : kc-102000

@city.kochi.lg.jp

HP : <http://www.city.kochi.kochi.jp/soshiki/21/>



（携帯・スマートフォンからは、こちらのQRコードをご利用いただくとスムーズにアクセスいただけます）



**「市民憲章」って知っていますか？**

2017.10月号

昭和42年、当時の社団法人高知青年会議所を中心に提唱された市民憲章運動。まちづくりの基本的な規律や目標を定め、互いに協力し努力していこうというこの運動は、市民の共感と賛同を呼び、昭和44年に「高知市民憲章」が制定され、来年50周年を迎えます。現在、高知市地域コミュニティ推進課が、「高知市民憲章推進協議会」の事務局をしています。

自然と文化が調和する安心安全のまちをめざした5つの憲章文に基づき、さまざまな活動を行っています。これらの事業は町内会をはじめとする個人・企業の皆様からの賛助金ならびに協力金によって成り立っています。

**<高知市民憲章>**

- 鏡川を清潔なまちのシンボルにしましょう。
- 世界をむすぶ高い文化と教養のまちにしましょう。
- たがいに親切にし、あたたかい社会をつくりましょう。
- 健康で働き、豊かなまちにしましょう。
- 交通ルールをまもり、事故のない安全なまちにしましょう。

**<主な活動>**

- 6月：高知市民憲章推進協議会助成金 初夏のまちを美しくする運動
- 7月：浦戸湾・七河川一斉清掃
- 8月：市民憲章よさこい踊り子隊
- 11月：「こんなまちにすみたい」 図画コンクール
- 3月：春季鏡川一斉清掃 等

# 一ツ橋連携協議会 が設立されました！

平成29年6月6日に、一ツ橋小学校区を活動区域とする地域内連携協議会「一ツ橋連携協議会」が設立され、平成29年6月30日に20番目の地域内連携協議会として認定されました。

7月22日には、第14回目となる「一ツ橋まつり」が連携協議会との共催事業として開催され、盛大に実施されました。平成29年度の後半には、冬の星空の説明会・花火大会が計画されています。

今年度の活動は子どもたちを中心に参加してもらおう取組みが多く、こういった事業を通して、地域に愛着を持つことで将来も地域に残り、自分たちの子どもを連れて来てくれるような、そんなまちづくりを目指して活動をしています。

<高知市が認定している地域内連携協議会>  
(平成29年10月1日現在)

**20地域 / 41地域中**



『高知市まちづくり未来塾』成人式を迎えました。大人になったよ！

平成29年10月29日に、高知市まちづくり未来塾は20歳を迎えます。作ることは易しいですが、継続する事は非常に難しいと言われてます。本当に、役員、関係者の皆様ご苦労様でした。今こうして学ばせていただいている事に感謝を込めて・・・

平成9年の漢字は、『倒』（大型企業倒産、銀行破綻が相次いだ事から）。また、『失樂園（する）』、『たまごっち』、『ガーデニング』、『もののけ姫』、『マイブーム』そして『郵政3事業（当時厚生大臣小泉純一郎）』等の新語、流行語がはやりました。洋画では、『007 トゥモロー ネバー・ダイ（英）』、『スターウォーズ《特別編》』、『タイタニック』等が公開されました。また、ホワイトハウスで、米・クリントン大統領と江沢民中国国家主席と会談、両国首脳による公式訪問を定期化することで一致しました。

そして、高知市で【高知市まちづくり未来塾】が誕生。平成29年10月29日20歳。

(高知市まちづくり未来塾 山北 忠彦)

未来塾の20年を一言で言い表すことはできませんが、紆余曲折いろんな事がありました。大きな波もありましたが、その都度なんとか塾生の皆さんと一緒に乗り越えて来られたのかなと思います。

この20年「まちづくりは人づくり」を掲げ、先進地視察研修や全体交流会、未来塾の塾といった、塾生個々のスキルアップはもちろんのこと、未来塾ならではの情報交換や交流、仲間づくりもある程度できたと思います。

そして、まちづくり推進室、まちづくり推進課、地域コミュニティ推進課と引き継がれてきた高知市の担当課職員と知り合うことができ、一緒にまちづくりに携わることができたのも未来塾の財産となりました。

このような個人や地域同士、地域と行政の繋がりを大切に、これからも活動していければと思います。

(高知市まちづくり未来塾 代表 岡田 法生)



## コラム 市民を「お客さまにしない」広報って何？～6つの“どん”（視点）～

今、ネックレスをしているあなたに、私は思わず、「それすてきね！どこで買ったの？」と聞きたくなります。こんなふうに「あっ、聞きたい」と思ってもらう、それが広報の役目です。そして、大切なのは、自分たちが何を目標として活動しているのか、それを見失わないことではないでしょうか。集まってくれた人たちとどうしていくのか、どんな社会をつくっていくのか、「広報が役目を果たした先」を見据えて活動することが大事です。

(東京ボランティア・市民活動センター(2016)『ききマネ本舗 みんなでききあうNPOマネジメント<NPOの資金づくりと広報編>』より)

「6つの“どん”（視点）」

- ① どんなんから（トーン&マナー）
- ② どんなんへ（ターゲット）
- ③ どんなん点（訴求ポイント）
- ④ どんなんとき（タイミング）
- ⑤ どんなん手段（メディア）
- ⑥ どんなん人

# こども×子育て×まちづくり フォーラム を開催しました！

新たな地域活動の担い手の確保・育成につなげていくために、「こども×子育て×まちづくり」をテーマに、若い世代、特に子育て世代やその子ども達を対象としたフォーラムを7月30日に開催し、延べ220名のたくさんの方にご参加いただきました。

午前の部では、「地域で育つ子どもたち～みんなで子育て・みんなで生きるまち～」と題した基調講演と「こどもと保護者がまちづくりに関わる意義」というテーマでパネルディスカッションを行い、講師やパネリストの方のそれぞれの視点から、実体験に基づいたお話を聞かせていただきました。

“こどもは地域へのパスポート！”(NPO法人ファザーリング・ジャパン代表理事 安藤哲也さん)  
地域とつながって、パパ友・ママ友を作っておくことは、災害時や退職後の生活にプラスになる。自分の子どもだけでなく、地域や周りの子どもが笑顔になるような活動を目指すべき。父親が変われば、家庭だけでなく地域全体が変わる。



“最先端をいくまち・高知！”(映画監督 安藤桃子さん)  
他のまちではもう失ってしまったものが、高知にはまだある。県内の人がいかにその魅力に気づき、発展させていくかが大事。高知の風土や人々は、生きる力が強い。高知には「見えないお金」が回っている。



“子どもたちの帰巣本能を高める仕組みを！”(株式会社わらびの代表・とさっ子タウン実行委員 畠中智子さん)  
私たち大人が、高知の良さをどれだけ子どもたちに伝えられているだろうか。「とさっ子タウン」では子どもたちがたくさんの人たちと出会い、影響を受ける場でもあり、そんな子どもたちに大人たちも刺激を受けている。子どもたちがまちづくりに関われるような仕組みが地域にも広がっていけば。



“いつかは高知に帰って恩返しを！”(島根県立隠岐島前高等学校2年生・こうちこどもファンド経験者 田部未空さん)  
否定的な自分が変わることができ、今のような道に進むようになったのは、両親や周りの人の助言や支え、カッコいい先輩たちがいたから。今度は自分が周りの人たちを変える番。もっと外の世界を見て、たくさん吸収して高知に帰ってきたい。



“高知にはお金ではかれない価値がある！”(早稲田大学社会科学総合学院教授 卯月盛夫さん)  
こどもを育てる・育むという点において、高知ではもともとあった風土や環境だけでなく、こどもファンドやとさっ子タウンなど新しい取組みが仕掛けられているのが素晴らしい。高知ではお金や理論で語られる経済ではなく、感性や感覚、感情が重要視される“コミュニティ経済”が存在しているのでは。



午後の部では、「こどもと高知にとって優しいまち・高知」を考えるワークショップを開催し、小学1年生から70歳代までのおよそ80名の方に参加いただき、「こうちをえいまちにするには？」というテーマでアイデアを出し合いました。現在、いただいた提案をもとに、まちづくりの活性化に活かす仕組みを高知市で考えています。

